

会 長 指 針

別 所 敬 之
(石油製品販売)

2011-12年度、素晴らしい伝統のある京都東ロータリークラブの会長を務めさせて頂くにあたり、国際ロータリーの歴史・現状をよく理解した上で、奉仕の心を持って当クラブらしい品格のあるクラブ運営を目指したいと考えております。

日本は世界で最も安全、安心な国であったが、昨今は考えられない様な社会問題が頻発し、“人の心”の大切さが失われつつあります。

ここ数年の歴代クラブ会長も“人の心”が如何に大切かを示されて来ましたが、100年前、シカゴロータリークラブのツイード会長も当時、世に大事なことは“人間愛”、“友愛”であり、“尊重される人格”であると示唆しました。この考え方は一世紀の後も益々世の中に必要となっています。

国際ロータリー、カルヤン・パネルジー会長は『こころの中を見つめよう、博愛を広げるために』(Reach within to Embrace Humanity)をテーマに掲げ、‘あなたの内に秘めた能力を活かし、博愛に努めよう’と呼びかけられました。

私は、今年度『感謝と貢献』を指針として活動したいと存じます。

今日自分が在るのは社会の人々のお蔭と感謝し、奉仕の心を持って社会の為に貢献すること、更に、クラブ会員として誇りを持って活動し社会から尊重されるよう日々努力する事が大事と考えます。

この一年、会員の皆様と共に、素晴らしい伝統のある京都東ロータリークラブを少しでも発展させ次代に継げたいと思いますので会員各位のご協力とご支援をお願いします。

追記 2011年3月11日発生した東日本大震災は未曾有の人的・物的被害をもたらし、被災地の復興には相当な年月を要する上、経済他あらゆる分野への影響は、現地、日本全国のみならず地球規模で拡大しています。今こそ我々には、一人一人が身近に出来る事を実行し社会に貢献する、というロータリアンとしてふさわしい行動が求められています。会員各位のご理解とご協力を心からお願い申し上げます。

2011－12年度クラブ運営方針

1. 充実した卓話による楽しい例会。

幅広いテーマの卓話により例会を楽しみつつ、自己研鑽を積む。

2. 国際ロータリーの現状を理解し、当クラブらしい運営をする。

各クラブの属する国際ロータリーの現状、変化を理解した上で、当クラブらしい品格のある運営により、会員のロータリアンとしての見識、人格を高め社会から共感を得るクラブを目指す。この事により結果として会員増強にもつながる。

3. 各会員がマイクラブの意識を持ち、奉仕の心で運営に参画。

各会員の協力による健全なクラブ運営により、伝統ある当クラブを次代に継承する。

4. 対外奉仕活動は出来るだけ継続する。

吉田山の環境保全、ミャンマーへの車椅子援助、留学生との交流・支援、京都市美術館への支援。

5. ファイヤーサイドミーティング他、会員間の絆、親睦を深める。

新しい会員が早くクラブに馴染めるよう、会員間の交流の場を多くする。

推薦者（1名）に1年間、新入会員のカウンセラーをお願いする。

6. 広い職域の新入会員を迎える。

現在の約100名という会員数は会員の顔が見え、居心地が良いので目標を105名とする。